

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

地域医療連携便り **令和5年度 第3号**

<http://www.hosp.pref.okinawa.jp/nanbu/>

Please check the URL/link. 

〒901-1193

沖縄県南風原町字新川118-1

Tel:098-888-0123 (代)

FAX:098-888-1212 (地域医療連携室直通)

当院の理念

こどもからおとなまで「大切な命を守り、県民に貢献する」病院 

ハイブリッド手術室 完成間近!



令和6年6月より稼働予定



手術室も新たに増設

Okinawa perf.Nanbu Medical Center/Nanbu Child Medical Center

いざハイブリッド手術室

ついに念願かなって、2024年6月より当院でもハイブリッド手術室が本格的に稼働となる。ハイブリッド手術室はカテーテル治療を行うための透視装置を手術室に持ち込むことで、より低侵襲な、より安全な治療を可能にする。

日本で初めてハイブリッド手術室が導入されたのは2010年。そこからハイブリッド手術室の有用性が確認されるや、爆発的に全国に広まっていった。遅ればせながらの導入ではあるが、病院一丸となって取り組んだことで、当院のハイブリッド手術室は県内初のバイプレーン透視装置を設置することができた。心臓血管外科、循環器内科、脳血管外科、放射線科といった血管系疾患を扱う分野が充実しているうえ、県内唯一のこども病院であり、先天性心疾患の砦としての使命がある。他院で不可能、困難とされた患者様にも対応していきたい。ハイブリッド手術室を活用し、県民の皆様にご安心、安全に最先端の医療を提供するよう努めていきたい。



心臓血管外科医
藤井 孝之



九州・沖縄ブロックDMAT訓練に伴う院内模災害訓練

訓練はマグニチュード7.8 最大震度6強を想定し、災害発生時の院内における医療救護活動の対応能力と職員危機管理向上等を目的に実施しました。九州地区のDMAT隊員や患者役として多くのボランティアの方が参加していただき、今後の災害医療体制強化につながる訓練となりました！



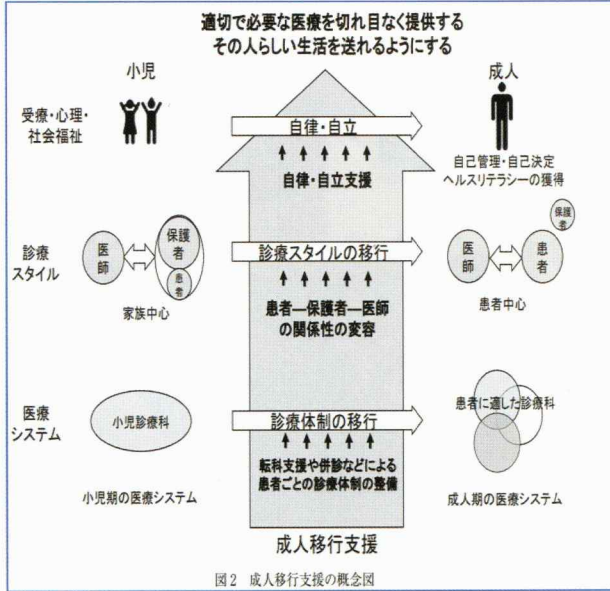


図2 成人移行支援の概念図

小児期発症慢性疾患を有する患者の成人移行支援を推進するための提言（2023年）

なぜ移行期医療が必要？

- ・小児医療の進歩により、持病を持つ子どもたちの多くが成人期まで達するようになった
- ・医療の進歩に伴い生命予後は大きく改善したが、多くは完全に治癒することはなく、原疾患や合併症に対する医療が引き続き必要な状態である

<医療体制の現状>

- ・小児診療科と成人診療科の連携が不十分である
- ・小児診療科による成人への医療提供は診療内容が不十分になる可能性がある
- ・移行期の患者を診察する医療従事者が限られている現状がある

<患者の現状>

- ・保護者への依存度が高く、患者本人の病気や今後起こり得る合併症などに対する理解が乏しいことが多い
- ↓
- ・進学、就職、一暮らし、結婚などのライフイベントを契機に怠薬やトランプアウトを生じやすい

移行期支援

自律・自立支援

（保護的な医療→自立的な医療）

自分の病気や治療について学びます
治療の自己決定、生活管理ができるための

- 自分の健康状態を説明できる
(セルフ・ホーカー)
- 病気に関する必要な情報を集め活用できる
(ヘルスリテラシー)
- 日常生活や病気に関する管理を自ら実施できる
(セルフケア)

転科支援

良質な医療が成人になってもうけられるよう小児医療～成人医療へシームレスに移行できる支援

- ・病状が安定した時期、生活環境が整った時期に転科する
- ・転科後も不安なく医療が受けられるための支援

当施設では、「移行期支援看護外来」で自律・自立支援を実施しています

「移行期支援看護外来」では

- ✳ 自分の病気・健康状態を自分で説明できること
- ✳ 日常生活や薬など病気に関する管理が自ら実施できること
- ✳ 自身の身体能力や健康状態に合った学業や就職を選択していくこと

を中心にお子さまにあった支援を行っています。

元阪神タイガース鳥谷敬さん、阪神タイガース選手、 総合格闘家平良達郎選手が病院訪問！(〜)!



鳥谷さんや阪神タイガース選手、総合格闘家平良選手が闘病中の子どもたちにエールを送るために来てくれました！去年まで感染拡大防止のため、直接交流が叶いませんでしたが、今年は久しぶりの直接対面となり、子どもたちも大喜びでした！



職員向けイベント再開

今年度から感染拡大対策を取りながら、
肝高の阿麻和利の公演、いちご狩りなど
たくさんのイベントを再開☆



肝高の阿麻和利



いちご狩り



地域連携室紹介

当院の理念『こどもからおとなまで大切な命を守り、県民に貢献する病院』の基、3次救急、脳卒中センター、精神身体合併、総合周産期母子センター、こども病院など多機能に対応できるよう、特化した分野でソーシャルワークを展開しています。



地域連携室・入退院支援室

治療後の次のステップを見据えた生活へのつなぎ役として、各ライフステージにおいて、産後の育児支援、医療的ケア児の発達支援、療養先の選定、介護・福祉、経済的支援相談など、患者様とご家族を取り巻く様々な生活課題について、一緒に考えてまいります。今後ともどうぞ、宜しくお願い致します。

ソーシャルワーカー・事務員一同

紹介・初診の予約・入院調整患者の紹介方法はホームページから



当院への紹介方法はホームページの医療関係の方へ、をクリックし患者様の紹介についてから閲覧できます。また、受診予約申し込み書・事前確認シートもダウンロード出来ます。

紹介の際は、当院地域医療連携室・入退院支援部門へ「診療情報提供書(紹介状)」「受診予約申し込み書」をFAXして頂くようお願い致します。(当院の外来への紹介の際は事前調整が必要となります)

FAXが届き次第、担当診療科医師と相談後直接患者ご本人と外来日の調整・案内を行っていきます。外来予約日が決まりましたらFAXで紹介元の貴院様へお知らせ致します。診療科によっては、1週間ほどお時間がかかることもございます。

円滑な連携にご協力をお願い致します。なお不明な点は遠慮なく地域医療連携室へご連絡ください。

地域医療連携室・入退院支援部門
看護師長 諸見謝 真・富山 鈴華



<http://www.hosp.pref.okinawa.jp/nanbu/>